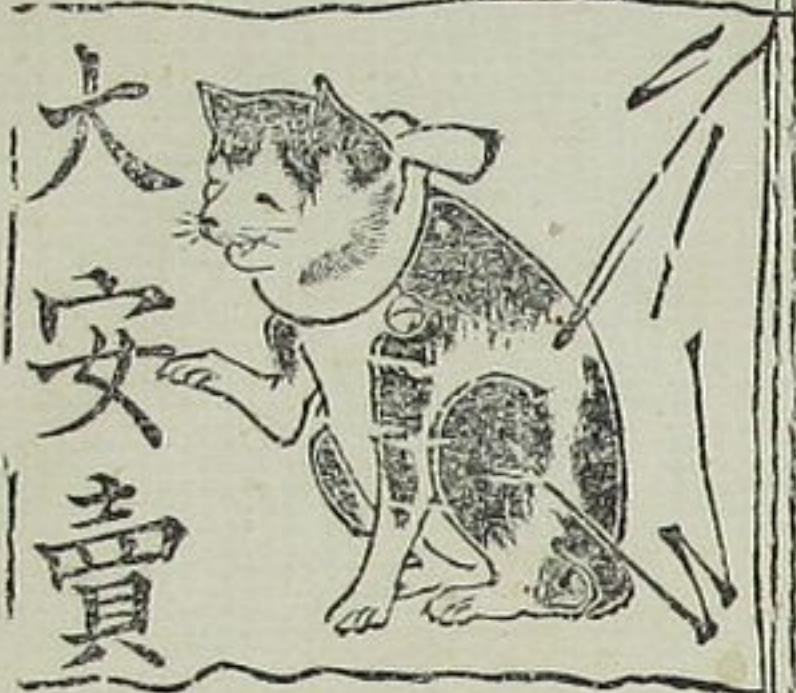


馬松岡

吳服  
太物  
賣類  
出

廣告

細流の大河に沿ぎ。丁稚を仕揚て舗主とある。天賦の順序に委する理にて。取  
分商估の營業。利を後にして得意を前に。開店の日も朝倉山椒。小粒ながらもひ  
り、と辛く。諸品の老舗の仕入にも。劣らぬと云御高評。千里と走る午歳よりま  
さる今年の初賣迄。はる未寒さ冬物類も去歳の仕入の一般の相場に連て大下  
落。實に元價の半減にて。賣捌きの骨折損。草臥儲けも商業冥利。一時の損の利益  
の基と世間外の大安賣。資本と根氣の續く。丈賣ってく賣まくる大憤發の腕  
限り。地性の細き太物の。一反二反算用に合ぬい承知精一倍廉價に差上奉つれ  
ば。買主の徳の機會を外さず。唯今の内極安の上等品を召せや。召せと當坐の利  
慾に關はらぬ。主個が腹の帳合を報條の戲文に摸して 猫々道人記



二月十一日  
十二日  
十三日 當日 鹿景呈上

新橋竹川町九番地  
朝・倉屋

銀座貳丁目芳譚雜誌愛善社印行